

# 第1学年 国語科学習指導案



1 単元名 「知らせたいことをかこう」(教育出版)

2 単元の指導目標

○身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。

プログラミング教育の視点

○知らせたいことを伝えるために、どのような言葉の組み合わせが必要であるかを考える力を育む。

○条件(相手)によって結果(文末表現)が変わることに気付かせて表現できるようにする。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
<ul style="list-style-type: none"><li>友達に知らせたいことを思い出し、文章に書こうとしている。</li><li>言葉に伴う「は」「を」「へ」に気を付けて書こうとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>書く相手を決め、題をつけて、経験をしたことを文章に書いている。…B1(ア)</li><li>語句や文のつながりに注意して、文や文章を書いている。…B1(ウ)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>平仮名や句読点などを、おおむね正しく書いている。…伝国(1)イ(オ)</li><li>敬体で書かれた文章に慣れ、敬体を使って書いている。…伝国(1)イ(キ)</li><li>助詞をおおむね正しく読んだり書いたりしている。…伝国(1)イ(エ)</li></ul>

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、現行小学校学習指導要領(平成20年3月告示)において以下のように位置づけられている。

第1学年及び第2学年 国語B「書くこと」  
(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文と文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。

特に、指導事項の「経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること」に重点を置く。本単元では、既習教材の『えとことばでかこう』、『ぶんをつくろう』、『みんなにはなそう』などを思い出し、習った文字を使って、まずは、お話をするように書けばよいことを理解させたい。その後、話し言葉と敬体の文章の違いに気付かせ、伝えたい相手を考えながら文章を書けるようにしていく。

平仮名の読み書きの指導が終わったところなので、まだ文字に対する抵抗感のある児童への配慮もしつつ、自分の体験やその時に感じたことを表現できることの素晴らしさを感じさせることに留意していきたい。

また、小学校学習指導要領解説総則編(平成29年3月告示)においては、

「小学校においては特に、情報手段の基本的な操作の習得に関する学習活動及びプログラミングの体験を通して論理的思考力を身に付けるための学習活動を、カリキュラム・マネジメントにより各教科等の特質に応じて計画的に実施することとしている。」(P.85)

「(略) 小学校段階において学習活動としてプログラミングに取り組むねらいは、プログラミング言語を覚えたり、プログラミングの技能を習得したりといったことではなく、論理的思考を

育むとともに、プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることなどに気付き、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育むこと、さらに、教科等で学ぶ知識・技能等をより確実に身に付けさせることにある。したがって、教科等における学習上の必要性や学習内容と関連付けながら計画的かつ無理なく実施されるものであることに留意する必要があることを踏まえ、小学校においては、教育課程全体を見渡し、プログラミングを実施する単元を位置付けていく学年や教科等を決定する必要がある。(P85~86)

「なお、小学校学習指導要領では、算数科、理科、総合的な学習の時間において、児童がプログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付けるための学習活動を取り上げる内容やその取扱いについて例示しているが、例示以外の内容や教科等においても、プログラミングを学習活動として実施することが可能であり、プログラミングに取り組むねらいを踏まえつつ、学校の教育目標や児童の実態等に応じて工夫して取り入れていくことが求められる。」(P.86)

とある。小学校プログラミング教育のねらいの1つである「プログラミング的思考」は、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」とされている。本単元のねらいに迫るために、「自分が意図する一連の活動(伝えたいこと)を実現するために、どのような動き(言葉)の組合せが必要」かを学習することでプログラミング的思考を育てていきたい。

## (2) 児童観

入学して3か月が過ぎたという時期的なものもあるが、本学級の児童は、「先生、聞いて。」「話したい。」と話すことへの意欲をもっている児童が多い。その内容は休み時間のこと、友達のこと、習い事のこと等、多岐に渡る。しかし、伝えたい思いが強すぎるため、話に割り込んできたり一方的な話をしてきたりすることもある。

これまでの学習で自分の考えを話す場面では、言葉に詰まったり発表者が限定されたりすることもあった。改まった場や友達に伝えるということを意識させると、苦手意識をもつ児童が増えることもうかがえる。

書くことに関しては、平仮名や言葉集めの学習を意欲的に取り組む児童が多い。平仮名の学習を終えて間もないので、長音、拗音、促音、撥音等の表記を身に付けている児童は少ない。助詞に関しても同様である。

意欲が高い児童が多いので、取り組む姿勢を称賛しながら、自分が伝えたいことを読み直したり書き直したりすることで正しく伝わるようになることに気付かせたい。

## (3) 教材観

本教材では、学級全体やグループで気軽に会話を楽しむ活動から始めていく。その際、大まかなテーマを示し、話したいという意欲を起こすようにする。「書く」単元であるが、第1時が「話す」ことを指導の柱としているのが特徴である。

その後、話したことをそのまま文にするよう指導する。文章を書く際には、相手意識をもたせるようにする。相手によって表記の仕方が変わることを指導するが、基本的な表記の指導も合わせ、本教材で完結させようとするのではなく、徐々に身に付けさせていけばよいこととする。

最後に、書き終わった文章を交流し、「書いてよかった」「また書きたい」と感じられるようにしていきたい。

## 5 年間指導計画における位置付け(指導事項・言語活動の関連)

月	単元名・教材名	学習活動	指導事項
6	ぶんをつくらう	主語と述語の関係に注意して文を書く。	句読点の使い方を理解し、主語と述語との関係に注意しながら文を書く。
6~7	しらせたいことをかこう	身近なことから知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。	身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。

7	えにつき	身の回りの出来事を、絵と文で表現する。	身の回りの出来事や経験したことを、絵と文で表現する。
9～10	たのしかったことをかこう	日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。	日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。

6 指導計画（プログラミングの考え方を生活科の時間を使って学習しておく。）

時間	主な学習活動	評価規準（評価方法）
1 (生活科)	○身の回りにおけるコンピュータについて考える。 「ルビィのぼうけん」のアクティビティに取り組む。	●「順次処理」「繰り返し」について理解している。（観察）
2 (生活科)	○「ルビィのぼうけん」のアクティビティに取り組む。	●「条件分岐」について理解している。（観察）

1	○さし絵をもとに単元の見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 ・身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。	●友達に知らせたいことを思い出し、文章に書き表そうとしている。（観察・ノート）
2	・P66の文例を読む。 ・文例を参考に、知らせたいことで、思いついたことを発表する。	●友達に知らせたいことを思い出し、文章に書き表そうとしている。（観察・ノート）
3	○伝えたいことを書く。 ・伝えたいことを話し言葉で文に書く。「せんせい、あのね……」の書き出しで書いてみる。 ・書き終わったら、声に出して読み返し、直すところがあれば直す。 ・書き終わった人どうして、交換して読む。	●平仮名や句読点などを、おおむね正しく書いている。（観察・ノート） ●語句や文のつながりに注意して、文や文章を書いている。（観察・ノート）
4 (本時)	○敬体で文を書く。 ・P66・67の文例を読み、言い方の違いについて話し合い、敬体で書くことを知る。 ・いろいろな言い方を敬体に直す練習をする。	●敬体で書かれた文章に慣れ、敬体を使って書いている。（観察・ワークシート）
5～8	○伝えたい相手を決めて文章を書く。 ・伝えたい相手を考えながら書く。 ・題名を決める。	●書く相手を決め、題をつけて、経験したことを文章に書いている。（観察・ノート）
9～11	○読み返し、交流する。 ・書いた文を自分で読み返し、まちがいを直す。句読点や文字のまちがいに注意する。 ・書き終わった人どうして読み合って、よかったところを伝える。	●平仮名や句読点などを、おおむね正しく書いている。（観察・ノート） ●語句や文のつながりに注意して、文や文章を書いている。（観察・ノート）
12・13	○書いた作品の中から、よいと思う作品を選び、発表し合う。	●平仮名や句読点などを、おおむね正しく書いている。（発言）
14	○P68の「ありさん」の提示文を読んで、助詞の「は」「を」「へ」の読み方と書き方を知る。 ○助詞の「は」「を」「へ」を使って文を作る練習をする。	●言葉に伴う「は」「を」「へ」に気をつけて書こうとしている。（観察・ノート） ●助詞を、おおむね正しく読んだり書いたりしている。（観察・ノート）

## 7 本單元における、研究主題にせまる具体的な手だて

### (1) 学習展開の工夫

伝えたいことをイメージできるように、「PROC™ for school」を利用する。PROCが他のプログラミングのコンテンツと異なる点は、始めにアニメーションがあることである。このアニメーションにより、具体的なイメージをもたせることができ、コンテンツ内の言葉を使って文章作りを考えることができる。プログラミング教育の観点から言えば、一人一人がタブレットを持ち、言葉を組み合わせる文章を作ることが望ましいが、そのようなコンピュータ、ネットワーク環境にないため、一斉指導型でコンテンツを用いることにする。

PROCを用いて文章作りについて理解を深めた後に、自分が伝えたいことを簡単な文章にできるよう、練習問題を行ってから書かせるようにする。

### 「PROC™ for school」について

株式会社ソニー・グローバル・エデュケーションが開発した、身近なテーマをプログラミングの手法を用いて主体的に考えることを促すデジタル教材。教科の内容のポイントに絞った内容となっている。シンプルな内容なので、1単位時間中の10～15分で活用することができるので、教科の学びを深めるのに適している。

### (2) 題材の設定

本單元では、生活場面の中で経験したことから書くことを決める。そして、書こうとする題材に必要な事柄を集める。生活場面の中から選ぶことで、知らせたいことを自由に選ぶことができ、楽しみながら書くことができると考えた。

また、伝えたい相手を考えながら文章を書くためには、どのような言葉の組合せが必要であり、それらをどのように組み合わせたらいいのかを考えることは、コンピュータに意図したことを伝えるスキルにつながると考える。2文程度の平易な文章を学習する現段階だからこそ、文章を分解し、伝わりやすい文章に作れるよう指導していきたい。

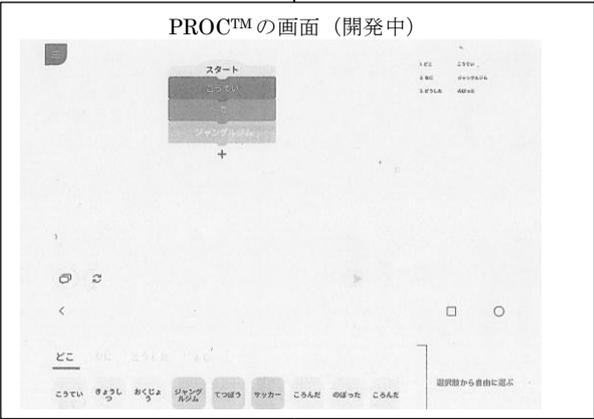
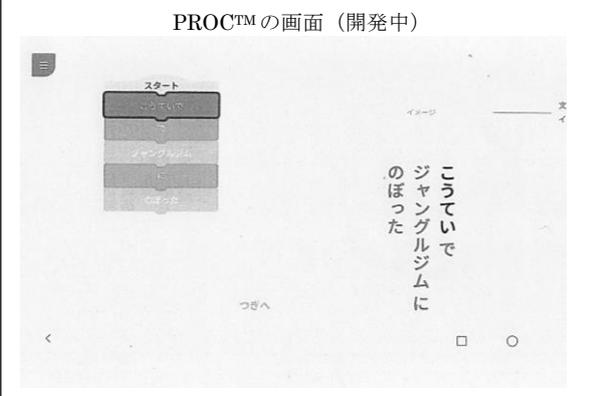
## 8 本時の指導（全14時間中の第4時間目）

### (1) 本時の目標

話し言葉と敬体の文章を読み比べ、敬体で文章を書くことができる。

### (2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動 T 主な発問 C 予想される児童の反応	指導上の留意点	【評価規準】(評価の方法) ☆教科 ★プログラミング
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文例を読み比べて違いを見付ける。</li> <li>T: 2つの文を読んでみましょう。</li> <li>    どんな違いがありますか。</li> <li>C: 書いてあることが違う。</li> <li>C: せんせいから始まっている。</li> <li>C: 右の文は話しているみたい。</li> <li>C: 「。」の前が「よ」と「ました」になっている。</li> <li>C: 左の文のほうが丁寧な言い方をしている。</li> <li>T: 友達には右の文のような書き方で伝えて、先生や年上の人には、左の文で伝えられるといいですね。</li> <li>T: 今日の勉強は…</li> <li>C: 丁寧な言葉で文を書こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し言葉と敬体の文章を拡大紙で並列して掲示し、違いを見付けて発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★条件(相手)によって結果(文末表現)が変わっていることに気付いている。(発言)</li> </ul>

<p>展開 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PROC を使って文章を作る。</li> </ul> <p>T: PROC を使って一緒に考えていきましょう。最初は、教科書の最初に出てくる「もりなおき」と同じ書き方をしてみましょう。</p> <p>T: 「どこで」には、何を入れたらいいでしょう。</p> <p>C: 校庭。</p> <p>T: 「何を」には、何を入れたらいいでしょう。</p> <p>C: ジャングルジム。</p> <p>T: 「どうした」には、何を入れたらいいでしょう。</p> <p>C: のぼった。</p> <p>T: では、文にしていきましょう。「こうてい・ジャングルジム・のぼったよ」だけでいいですか。</p> <p>C: つなぐ文字が必要。</p> <p>T: では、つなぐ文字を使って文にしましょう。 「こうていはジャングルジムののぼったよ」</p> <p>C: 「こうてい」の後は、「で」。</p> <p>C: 「ジャングルジム」の後は、「に」。</p> <p>T: 「こうていでジャングルジムにのぼったよ」だと伝わりますね。</p> <p>T: 次は、伝える人を「ひらいあや」と同じようにしてみましょう。</p> <p>T: 今度は丁寧な言葉で文を作っていきましょう。</p> <p>T: さっきと同じように「こうていでジャングルジムののぼったよ」でいいですか。</p> <p>C: 校長先生に伝えるなら、「のぼりました」。</p> <p>T: 上手に作れましたね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員用のパソコンで PROC を投影し、一斉指導形態で作成する。</li> </ul>	<p>★順序(語句や文のつながり)に注意し、処理して(文を書いて)いる。(発言)</p>
<p>PROC™の画面(開発中)</p> 			
<p>PROC™の画面(開発中)</p> 			
<p>展開 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の伝えたいことを書く。</li> </ul> <p>T: では、皆さんの伝えたいことを文にしていけます。最初に、練習をしましょう。「いちりんしゃ」をした人は、どういう風にかければいいでしょう。</p> <p>C: 「こうていでいちりんしゃにのりました。」</p> <p>T: 一緒に書きましょう。</p> <p>T: 「かるたあそび」をした人はど</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いきなり取り組ませるのではなく、例を示して理解を深めるようにする。</li> <li>自分の伝えたいことを書かせる。</li> </ul>	<p>☆敬体の文末表現を理解し、敬体で文章を書いている。(観察, ワークシート)</p>

	<p>ういう風に書けばいいでしょう。</p> <p>C:「きょうしつでほんをよみました。」</p> <p>T:一緒に書きましょう。</p> <p>T:次は、自分の伝えたいことを書いてみましょう。</p>		
ま と め	<p>・本時の学習を振り返る。</p> <p>T:振り返りをしましょう。</p> <p>T:丁寧な言葉で文を書くことができましたね。</p> <p>これで、「ひらいあや」と同じ文になりましたね。</p> <p>C:「ひらいあや」さんの文は続きがある。</p> <p>T:そうですね。では、次は、書いた文の続きを書く勉強をしましょう。</p>	<p>・敬体で文章を書けたか振り返る。</p> <p>・次時は、文章をより詳しく書く方法を学習することを伝える。</p>	

## 9 板書計画

しらせたいことをかこう

ていねいなことばでぶんをかこう

いちりんしゃ

こうていでいちりんしゃをしました

どくしょ

きょうしつでほんをよみました

PROC™の画面

にじ

もり なおき

せんせい、あのね、

ぼくは、きのう、にじをみたよ。いろが、とてもきれいだっただよ。

かみひこうき

ひらい あや

きのう、おとうとと、かみひこうきをつくりました。そつととばしたら、つくえのまんなかにうまくのりました。

教科書の例文。拡大紙に印刷して最初に掲示する。